

平成 30 年度第 1 回理事会議事録

開催日：平成 30 年 4 月 27 日(金)15:00～16:45

場 所：：東京文化会館 中会議室2

出席者：雨谷敬史、石塚真由美、大河内 博、太田壮一、大塚宜寿、門上希和夫、坂田昌弘、柴田康行、清家伸康、高菅卓三、高田秀重、鎌迫典久、田辺信介、中野 武、藤峰慶徳、尹 順子、吉田寧子、西島 功
(敬称略、50 音順、出席理事 17 名、出席監事 1 名)

1. 会長挨拶（柴田会長）

配布された資料によると会員数が右肩下がりです責任を感じている。皆様に学会活動を進めて頂いているし、研究としてもやらなくてはならない事が増えている状況の中、どのように活性化していくか本日議論頂きたい。

2. (定足数について)

定款 40 条により理事会成立には全理事 22 名の 2 分の1以上の出席が必要であり、本日出席理事は 17 名であり理事会は成立する。

3. (議事録について)

議事録は HP へ掲載する。

4. (議案審議)

1 号議案 平成 29 年度事業報告および決算承認の件

・事業報告と収支報告について業務執行理事清家伸康氏より下記の説明があった。

- ① 理事会は 3 回開催(追加で電子理事会が 2 回)した。
- ② 討論会は、昨年度は静岡県グランシップで開催、今年度沖縄開催の実行委員会が立ち上がり、現在次年度埼玉開催の計画が進んでいる。
- ③ 幹事会活動について、講演会企画部会では水銀に関する講演会を開催し、編集部会は 1 月に編集委員会を開催した。特筆すべきは地区担当各部会の活動であり、北海道東北地区部会及び関東地区部会で部会費を使ってセミナー・シンポジウムを開催した。また WET 部会で研究会を開催した。
- ④ 平成 29 年度は事業活動収支差額でおおよそ 300 万円の黒字となった。静岡で開催した討論会の収益に依る所が大きい。支出について、部会活動費は約 40 万円(予算 100 万円)で、国際交流費(予算 60 万円)は支出されなかった。結局 3,257,101 円の黒字となった。

・討論会収入の備考に「第 26.27 回討論会」とあるのは、今年開催の第 27 回(沖縄)分の補助金 300 万円の内 100 万円がすでに支給され、収入に含まれているという意味である。

・部会活動費には北海道、関東、WET の 3 件分が含まれている。3 つの部会以外にもセミナー開催準備あるいはナイトミーティングを利用して活動する等の動きがある。

・国際交流費においては、用途として国際会議旅費を予定していたものの申請が無かった。また部会としてウェビナー(Webセミナー)の導入を検討しているが調査にとどまった為、平成 29 年度での支出は無かった。

今年 ICAEC2014 でのバンコック宣言に記載のとおり、タイの姉妹学会を設立するため、11 月にタイに行く旅費として使用する予定。

・「高校環境化学賞」と「高校生シンポジウム」それぞれの部会間で情報の共有が十分でなかった為、「地域枠」「離島枠」に関して誤解が生じた。次回以降、同じ部会にするのか、複数名が重複してやるのが良いとの意見があった。

・学校行事や旅費の為に参加できない高校もあった為、ウェブセミナーの可能性を検討したいという意見があった。

・高校生の論文も優秀なものも多く、なにか今後の会員増加につながるような取り組み方ができないか。

・「環境化学」誌に高校環境化学優秀賞受賞校の 2~3 頁のアブストラクトをコメント入りで掲載して学会の活動をアピール。

以上の説明・質疑応答の後、1 号議案について承認された。

2 号議案 平成 30 年度事業計画および予算承認の件

・事業計画と収支予算について清家理事より下記の説明があった。

① 登録会員数のうち賛助会員については、4 社が退会したため、57 団体となった。

② 事務局業務は規定通りであるが、特筆すべき事として今回の沖縄から討論会事務局業務も含まれており、来年度もその形で運営する方針である。

③ 来年度は評議員と役員選挙が実施される。

④ 編集部会では、機関誌に新コーナー「わたしのおすすめ」が企画されている。

⑤ 学術図書出版部会では、柴田会長を中心に講談社ブルーバックスでの出版を準備している。25 周年講演会の内容を一般向けの冊子として環境化学をアピールする。高校化学賞の副賞で渡せるようなものにして活性化にも繋がる事を期待している。

⑥ 収支予算書(案)について、収入は 27,527,200 円を見込んでいる。昨年度より増えている分は討論会収入である。支出は 29,044,200 円で、赤字予算を計上している。支出として昨年度同様に部会活動費を 100 万円、国際活動費も 60 万円計上している。ブルーバックスの冊子買い取り分として 30 万円を予算計上している。また、高校環境化学賞の予算増額との幹事会方針を受けて 15 万円増額の 50 万円とした。

・平成 30 年度収支予算書(案)に記載の前年度予算額のうち前年度繰り越し収支差額と次期繰り越し収支差額が、平成 29 年度収支報告書と金額が異なっていると指摘があった。正しく修正する。

・討論会収入増見込みの根拠は、沖縄開催における地域の補助金である。ただし、参加者が 500 名以上にならないと補助の対象にならない。

・個人会員は減少しているが、学生会員は増えているので学生が関与する機会を増やす努力や、地方の環境研究所への働きかけのために勉強会やセミナーを、分析会社などの賛助会員の協力を得て行うなどの地道な努力が必要。そういうところに少しお金を使ってはどうか。

・地方の環境研究所は異動が多いため、研究員のモチベーションも低く、十分な知識も持っていないのでセミナーは良い考え。

・討論会の場(会場や会期)で、会員が打ち合わせや共同研究者とミーティングできるように、討論会のプログラムに支障のない範囲でスペースを提供し、会員サービスを図ると討論会に参加しやすくなる。

・消費税もあがり、物価もあがるので、学会費の金額についても検討が必要なのではないか。

- ・会員数に対して、討論会の参加者が多いのはすばらしい。
- ・個人会員の内訳や退会者のデータを精査し、対策を講じる必要がある。
- ・終身会員制度を導入してはどうか。そうすれば、引退した方は退会しない。
- ・終身会員への雑誌の送付があると赤字になるのではないか。
- ・他学会との共催シンポジウム・連携を積極的に行ってはどうか。
- ・環境ホルモン学会の中でスペシャルセッションを計画しているが、共催というわけではない。来年の埼玉にうまくつなげたい。
- ・学会内で水環境学会員は多いようだが、大気環境学会員は少ないようなので、来年の埼玉で大気環境系の人たちを取り込む仕組みをつくれたらよい。
- ・分析だけでなく処理や対策などに広げていくとよいのではないか。

以上の説明・質疑応答の後、2号議案について収支予算書(案)は修正一任するとして承認された。

3号議案 平成30年度幹事会付託事項承認の件

- ・議案通り承認された。

議長により平成30年度第1回理事会の議案審議が終了したことが宣言され、閉会した。

署名人 代表理事 _____ 柴田 康行



監事 _____ 西島 功

